



work

NO.118

わくわく～くちば

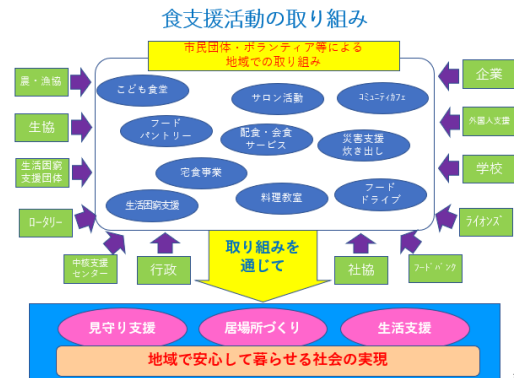
2022.4.10

ワーカーズ・コレクティブ (W.Co) とは・・・

同じ目的を持った仲間が作り出す。地域に有用な事業/出資・労働・経営を全員で担う/働くことを通じて社会的・経済的に・精神的自立をめざす

食は心の扉をひらく、つながろう を教えてくれた「食でつながるフェスタ in ちば」

子ども食堂やフードバンクなどの食支援活動が、千葉県内でも広がっています。コロナ禍で直面している課題を浮き彫りにして、地域で持続可能な活動としていくための「人・モノ・資金」の仕組みづくりを目指して、3月4日、千葉大でハイブリッド開催されました。子ども食堂の実施団体や個人、行政関係者など総勢103名。フェスタ実行委員は、生活クラブ虹の街、風の村、ちばのWA福祉基金、千葉県と柏市の社会福祉協議会、千葉県子ども食堂連絡会、フードバンクちば、TKF等で、W.Coういずが事務局を担いました。



-公募の組合員編集委員がフェスタに参加した感想です-

近年、子ども食堂は、経済的困窮や困難を抱える子どもたちへの食支援活動として注目を集めている。もともとは小規模な地域の活動だったが、コロナ禍、フードパントリーやひとり親家庭への食材配布などへの対応で、環境が激変し、新たな課題に直面しているようだ。子ども食堂への認知も高まり、食材の寄附や行政の支援も届くようになったことはありがたい。しかし食材を配布するだけで、孤立や貧困の根本的解決にはならない。食材の仕分けや配達などマンパワーの不足や保管場所確保にも頭を抱える。支援する側の負担増によるもやもや感も含めて、このままでは活動の継続が難しくなる。

子ども食堂は、食の力で、子どもたちの心を開き、家庭や学校では見せない姿や事情を知ることができたりする。また、利用者、活動者、支援者をつなげる居場所としての側面もある。行政や福祉施設との連携ができると、より深い支援やアウトリーチにもつながる。無理なく活動を続けて、それが地域全体での見守りや福祉サービスになっていくのが理想の形だと思う。

そのためにも、金銭的な問題や人手不足など活動を支えるための工夫、仲間づくりの輪が必要だ。食で地域や生産者、企業、行政がつながり、子どもたちの明るい未来、地域の明るい未来につながっていくよう多くの人と一緒に考え、役割分担しながら共に取り組みれば、より良い社会を築けると感じたフェスタだった。

(柏 B 大澤みはる、田口由美恵)